



## 検体前処理自動分注装置を新機種に更新しました LabFLEX 3500 TYPE DET(日立アロカメディカル社)

検査科生化学係発信

検体前処理自動分注装置は、それぞれの検査に必要な血清量を依頼情報に基づいて自動的に元検体から各分析機用のサンプルカップや子検体容器に分注する装置です。

これまで使用していた機種は、平成16年7月の稼働から10年以上経過し、装置の経年消耗による修理や重症度の高い故障も増加してきました。このため、復旧に有する時間が増大することにより、結果報告遅延等のリスクも増大することが懸念されるため、平成27年度に新機種へと更新しました。それでは新機種の特徴などを以下にご紹介いたします。

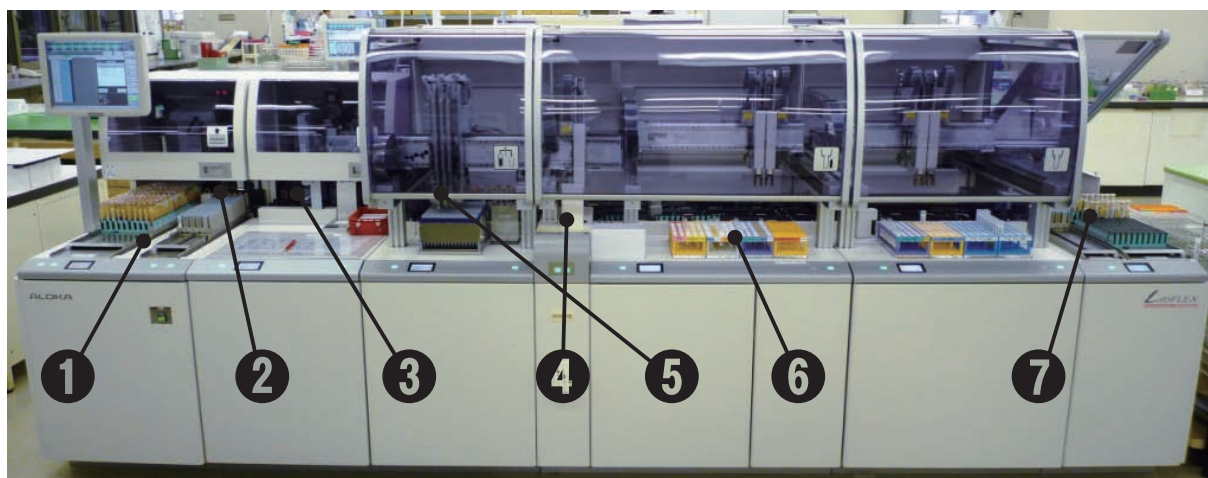
### 1. 新機種の優れた機能

- ①分注量不足の検体はエラー専用ラックに自動排出 ⇒**検体取り違い防止、業務負担軽減**
- ②分注速度のアップ ⇒**至急検査に対する報告時間の短縮**
- ③子検体容器の自動供給（従来機では担当者が準備）⇒**省力化**
- ④1 検体あたりの分注用チップ使用量の削減 ⇒**コスト削減**
- ⑤元検体のバーコード読み込みによる依頼情報の取得\* ⇒**検体取り違い防止**
- ⑥元検体のキャップを自動開栓処理\* ⇒**コンタミネーションの防止**

\*⑤⑥は従来機にも搭載

### 2. 新機種による自動分注の流れ

▼検体前処理自動分注装置（LabFLEX 3500 TYPE DET）全体像



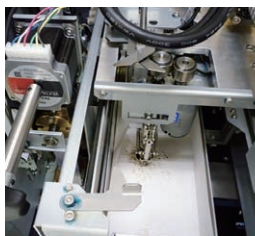
- 1**  
遠心分離した元検体を搬送用ラックにセットし、検体供給部より投入



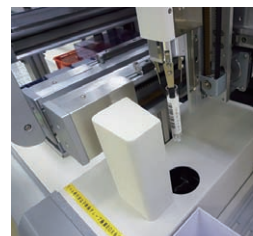
- 2**  
元検体のバーコード情報の読み取り



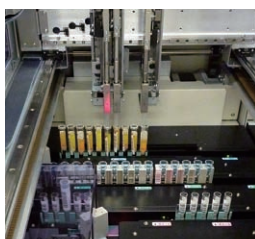
- 3**  
元検体のキャップを自動開栓



- 4**  
分注情報に基づき必要な子検体容器にバーコードラベルを自動貼付



- 5**  
子検体容器に必要量の血清を分注



- 6**  
各分析機用・各検査用に用意されたラックに子検体容器を分配



- 7**  
分注されたサンプルカップと元検体を検体排出部より排出

このような分注工程を経て、各分析機器に搬入されていきます。

その数は、1日平均2,600検体を13分類（分析機器など）に仕分け分注しており、その仕分け総数は5,000件にも上ります。今や当検査センターになくってはならない機器の1つとなっております。

### ◆◆◆ 検体ご提出時のお願い ◆◆◆

「ご提出前に今一度ご確認ください」

以下の事項にご留意ください。不備な場合は「エラー」となり、自動分注が一時中断する場合があります。

- バーコードラベルは斜め貼りにならないよう、真っすぐ貼付してください。
- バーコードラベルを貼付の際、極端に上や下に貼付しないてください。
- 検体のキャップシールのつまみの上にバーコードラベルを貼付しないでください。
- オーダリングシステムでの依頼の場合、出力されたラベルの一部が切れていないかなども確認してください。

